



総括的評価課題に取り組む 生徒たち

さて、IB 本格実施から2ヶ月が経とうとしています。「授業のどこが変わった」ではなく、「授業によって自分はどう変わった」かを単元の終わりには振り返ってもらいたいと思っています。早速、体育の Unit 1 「体づくり運動」では総括的評価課題のレポート提出がありました。評価の標準化を図るため、中村と私とでルーブリックとにらめっこしながら成績をつけましたが、3年生だけでも1時間半の時間を要しました。改めて、ルーブリックをもとに評価することの難しさと、責任の重さを感じました。やはり、ルーブリックは作って終わりではなく、少しずつ改善していくことが求められます。私たち教職員もルーブリック作りと評価のノウハウをしっかりと身につけていくことが今後の課題だと実感しました。



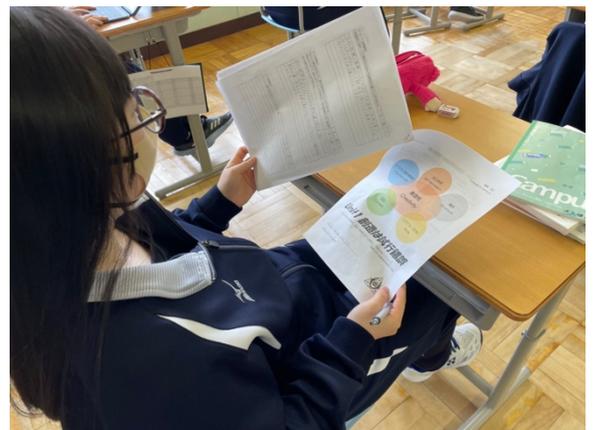
↑ 3年生の体育。「**実生活に生かす運動メニューを立てよう**」



→ 2年生の国語。

2年生はまさに今総括的評価課題「**写真をもとに自身の思いや体験を含めた短歌を1首創作し、その作品に対する解説文を作成する**」に取り組んでいるところです。

単元のワークシートでもある概要説明書にしっかりとこれまでの振り返りが書かれており、どんな解説文を書けば読み手に自分の意図が伝わるのかを理解しながら取り組んでいる様子が見られました。



～みんなで学びを～IB用語

前回のワークショップでは、「IBの言葉がわからない」というご意見をいただきました。通信の中で適宜お知らせはしてきましたが、新しく加えた用語もありますのでご確認ください。

過去のIB通信より

①「重要概念」 ②「関連概念」 ③「グローバルな文脈」

各教科で指導の単元計画（ユニットプランナー）を作成し、探究テーマを設定する際に用いられる3つのカテゴリーをさします。（詳細は今号では割愛します）

ストランド

→教科の目標。日本の学習指導要領では全教科①知識・理解 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3観点で評価されるが、IBでは教科ごとに目標が定められ、それをもとに評価規準も作成される。ABCDの4つで区分されている。数学では、
A 知識と理解 B パターンの探究 C コミュニケーション D 実生活への数学の応用

サマティブアセスメント（総括的評価課題）

→単元を通して学んだことを評価するための課題。テスト、レポート、プレゼンテーションなど形式は様々であるが、単元の初めには概要の説明がある。

ルーブリック（評価規準）

→単元の初めに手渡される概要説明書の中に記載されている、総括的評価課題を評価する上での目安となる表。

ATL (Approaches to learning)・・・学習のアプローチ

「生徒が探究を通じて発達させ、教科の目標への到達に結びつくスキル」

ATLスキルは以下の5つのカテゴリーに分類される

（思考スキル、社会性スキル、コミュニケーションスキル、自己管理スキル、リサーチスキル）

*今年度、本校ではATLを研修の柱として取り組んでいるところです。

SA (サービス アズ アクション)・・・奉仕活動

「IBのカリキュラムの中の1つ。花壇の整備や、小学生へのプレゼンテーションなど幅広い活動。ただし、生徒が自分で考え、自分で行動を起こす、活動を振り返ることが大切である。」

今までお伝えしていなかった用語

PYP (Primary Years Program) ・ **MYP** (Middle Years Program) ・ **DP** (Diploma Program)

→小学校・中学校・高校のように発達段階でプログラムを組んである。MYPはYear5まであり、中学1～3年生はMYP2～MYP4に該当する。

IDU (学際的単元)

→2つ以上の教科を組み合わせで構成された単元。本校では、6～7月に校内研修で教科の組み合わせと単元を決定し、3学期以降取り組みを行う予定。